

中外雑記

神社会

復興へ確実な一歩

●長田神社（津田信基宮司）では昨年十二月二十三日、午前十時から斎行された天長祭に引き続いて「正面大鳥居竣工奉告祭」が行なわれ、桧の香りも芳しい新しい大鳥居で正月の参拝者を迎えた。兵庫県南部地震で極めて大きな被害を受けた神戸市長田区に鎮座する長田神社は、境内の石の大鳥居四基をはじめ、注連柱一基、石灯笼七十八基、石玉垣など、石造りのものが全て倒壊するという被害を受けた。正月を迎えるにあたって神社の象徴である新しい大鳥居の建立が望まれていたが、伊勢の神宮の配慮により、式年遷宮で出た古材の払い下げを受けることが実現し、このほど修復作業が完了したもの。震災の被害を目のあたりにして「石造りのものは危ない」と考えていた津田宮司にとっては、願い通りの桧の大鳥居竣工となった。当日は長田神社氏子会、長田乃宮婦人会、長田神社茶花道会の役員をはじめ、崇敬者らが参列し、式典、清祓式を厳かに執り行なった。また、祭典後には“くぐり初め”の儀式がなごやかに行なわれた＝写真【写真は省略】。当日はくぐり初め参加者の先着四百人に記念の紅白餅が配られるなど、長田神社は震災復興の確かな一歩を踏みだし、節分の準備も整えられた。
